

単元名 音楽のまとまりを生かして合わせて歌おう

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
 (2) 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。
 (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

10260205_001

【教材名】明日を信じて 飛び立とう君の空へ (P. 20～P. 23)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「明日を信じて」の主旋律を担当するパートを確認する ★「明日を信じて」を歌おう。 ○「明日を信じて」の範唱を聴取し、主旋律の現れ方を確認する。 ○女声と男声のパートに分かれて歌う。</p> <p>2～3 曲の山場や各パートの役割を考え、曲想の変化を感じ取りながらパートごとに表現を工夫する。 ★「明日を信じて」の表現を工夫して歌おう。 ○各パートで主旋律の現れ方や強弱の設定などを確認し、曲の山場の表現の工夫を考え、ワークシートにまとめる ○パートごとに考えた表現の工夫を発表し、表現する。</p> <p>○学級として表現を工夫する内容を整理し、まとめの表現をする。</p> <p>4～5 これまでの学習で得た知識や技能を生かして「飛び立とう君の空へ」の表現を工夫する。 ★「飛び立とう君の空へ」を歌おう。 ○「飛び立とう君の空へ」の範唱を聴取し、主旋律の現れ方を確認する。</p> <p>○「明日を信じて」の表現の工夫を「飛び立とう君の空へ」に生かし、学級全体で表現を工夫した内容を整理して表現をする。</p>	<p>・主旋律を意識させるため、主旋律を担当している場合は手を上げて歌わせてもよい。 【評】それぞれのパートを歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】曲の山場の表現の工夫を考え発表し、表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・必要に応じて、P. 21「指揮をしてみよう」を活用して強弱を意識した指揮の仕方を説明する。</p> <p>・デジタル教科書を活用し、P. 25「変声と混声合唱」を提示し、パートの役割を確認しながら活動させる。 【評】「明日を信じて」の表現の工夫を生かして「飛び立とう君の空へ」を合唱する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

「明日を信じて」を主教材にして、パートの役割を理解し全体の響きや各声部を聴取しながら表現を工夫する。そして、楽曲全体の構造（1 冒頭 8 小節：斉唱，2 続く 8 小節：混声合唱，3 これ以降）を演奏形態の変化とともにとらえ、曲想の変化を感じ取りながら合唱で表現する技能を身に付ける。「飛び立とう君の空へ」では、「明日を信じて」と音楽の構造を比較し、担当するパートの役割を確認しながら表現を工夫する。

【共通事項】旋律・テクスチャ・強弱・構成